

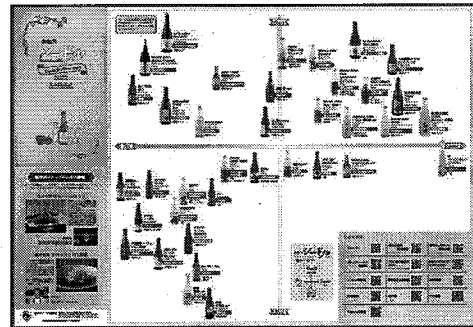
令和4年度 地域発元気づくり支援金事業総括書

事業名	味覚センサーを活用したシードル味わいマップの作成
事業主体 (連絡先)	南信州シードル協議会 【事務局】下伊那郡松川町元大島 3823 松川町役場産業観光課内
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大 ア 特色ある観光地づくり (6) 産業振興、雇用拡大 エ 商業に振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	910,383円(うち支援金: 728,000円)

事業内容

R4は「南信州シードルの認知度向上」を基本に、地元シードルの味わいが多様になったことによる消費者が好む味わいを視角により判断できること(選択の容易化)及び、消費者が求める好きな味わいの追求を目的に事業を実施した。

- ・味覚センサーを利用した味わいマップの作成 6月
- ・消費者イベントの開催と好みの味わい調査
- ・消費者向けイベントの開催



【味わいマップ】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①地元シードルの種類が多様になった現状においては、消費者にとっては分かり易い、販売者にとっては説明しやすいツールの作成となり、多数反響が寄せられた。
- ②コロナ禍での開催(2年ぶり)となったが、イベント130人、セミナー15人の参加があり、南信州シードルの発信、生産者と消費者の交流の場の構築と地域の賑わい創出が実行できた。
- ③イベント内のアンケートの実施により、各年代における好みのシードルとは何か今後の生産時における検討材料の収集ができた。(回答数104)

【目標・ねらい】

- ①シードルの販売促進(消費者増)
- ②シードル生産者の増
- ③天竜川ワインバレーの連携強化
- ④国内外からの観光人口の増

※自己評価【B】

【理由】

- ・味わいマップは高評価の販売促進ツールとなった。
- ・コロナ禍におけるイベント開催による賑わい創出と客数が確保できた。
- ・消費者が求める味わいの方向性の検討ができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ・味わいマップの作成は今後も実施していきたい。これについては、上述における効果の部分と飯田産業センター設置の味覚センサー利用における実績も考えた事業実施となっている。
- ・アフターコロナ時代に突入するとい中で、イベント実施の効果には手ごたえを感じた。リニア時代に向けた観光人口増を目指しシードルによる誘客について検討したい。
- ・天竜川ワインバレー構想を更に推進するため、本協議会を継続し、生産者増を目指した取り組みについて検討を進める。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある